

## 核燃・だまっちゃおられん津軽の会

### 第14回総会決議

2021年6月28日

六ヶ所村の再処理工場は度重なるトラブルによる延期を重ねてきましたが、いよいよ2022年上期に完成することとなっています。再処理工場は、原子力発電所の使用済み核燃料から、残っているウランと新たに生まれたプルトニウムを取り出す施設です。再処理工場から排出される放射性物質は原発と比べて桁違いに多く、再処理過程における流出の危険も非常に高いといわれています。また、プルトニウムは核兵器の原料となることから、世界各国が日本の核保有を懸念しており、内閣府原子力委員会は「利用目的のないプルトニウムは持たない」、「プルトニウム保有量を減少させる」との基本的な考え方を堅持しています。しかし、再処理工場の操業開始はそれらのこととまったく整合性がとれません。

さらに、六ヶ所村にはすでに海外の再処理工場から運び込まれた多量の高レベル放射性廃棄物が一時貯蔵されています。青森県は国との間で、青森県を核のゴミの最終処分地とせず、いずれ必ず県外に持ち出すとする約束を結んでいますが、その約束が果たされそうにない状況になってきました。このままではなし崩し的に青森県が高レベル放射性廃棄物の最終処分地になってしまうのではないかという、県民の不安が現実味を帯びてきています。私たちは、青森県を最終処分地にしない条例を制定する運動に参画するとともに、最終処分のあり方についても議論を重ねています。

他方、青森県を中心とした北海道・北東北地域の縄文遺跡群が世界遺産に登録される見込みとなりました。かつてこの地に住んでいた縄文の人々は、青森県が全国でも有数の危険な核施設をもつことになると予想することはなかったでしょう。核を管理することは、縄文から現代に至る年月以上の時間がこれから必要であるということを意味します。そのことは永く未来に渡ってこの地に負の遺産を残すことになるでしょう。

以上より、私たちは六ヶ所村の再処理工場の建設・操業に強く反対するとともに、青森県を放射性廃棄物の最終処分地にしないために運動を進めていきます。

以上